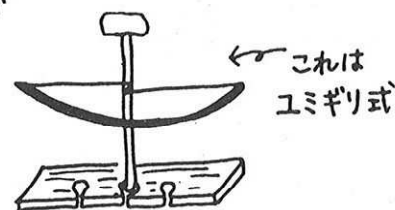


竹で火起こしに挑戦!

火起こしというと、ユミギリ式やキリモミ式が有名ですが、ここでは、材料が手に入りやすく、作りやすく、発火しやすい竹による方法を紹介します。

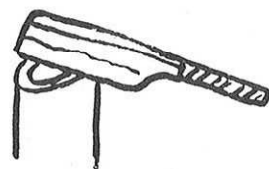


道具作りの巻

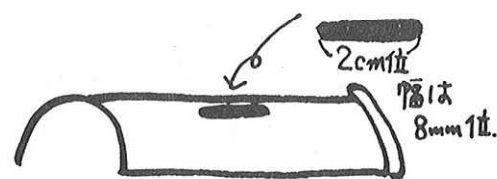
1. 竹(直径5~6cm位)をひとふし、のこぎりで切りとる。



2. 切りとったひとふしをなたで2つに割る。



3. 片方の竹の頂点 中央に貯金箱のような穴をあける。

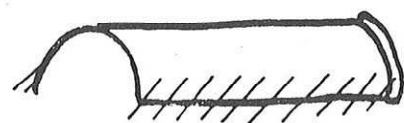


まず、両端にきりで穴をあけてから。
●.....● 間を切り出し小刃などで切っていくとよい。

4. なたで、皮をけずりとる。



穴あき竹は 中央部を。



もう1つは、両端を。

※ 表面のツルツルした皮をとらないと 火起こしは成功しない。

チャレンジの巻

1. 台の上に、穴あき竹を置き、穴のところに直角に もう一方の竹をあてて、ゆっくり 力を入れてこする。



2. 穴から台に 白っぽい粉が おちます。それを 気長にためていこう! 他の発火法とちがって、途中で手を休めても、粉の状態を のぞき見しても大丈夫。

※ ここで 早くこすりすぎると 粉が 黒く こげて、発火しづらくなる。

3. じゃうぶん 粉が たまったら、発火作業にうつろう。今までと同じ やりがたで、力いっぱい、これ以上 早くできないくらいのスピードで こする。

4. モクモクと 煙が出て、こげくさくなってくる。しばらくして、竹をどけてみると その中に 火種が できている。

※ 火種が できているか わからない時は、そっと 息をふきかけて みよう。

火種から炎へ

火種は、炎ではなく、線香の火のように 赤い 静かな火です。これを 炎にするのは 大変な 作業ですが、代表的な方法は……。

- ◎ 火起こしで 使ったような、竹のふしを 割った 器に、燃えやすく 細かい 繊維 (荷作り用アサヒモを よりもどして 細かく フワフワにしたもの、モグサ、ススキの 木 など) を 置き、その上に 火種を のせる。そして、息をふきかける。

